

平成21年度第4回市川市総合計画審議会 会議録

日 時：平成22年2月17日（水） 10：00～12：00

場 所：市川市役所 3階 第1委員会室

出席者：瀧上信光委員、柳沢幸江委員、小倉裕直委員、井上俊彦委員、徳力修委員、小川浩委員、歌代素克委員、國府濱敦子委員、須保毅委員、幸前文子委員、飯沼俊雄委員、山口繁雄委員、井上敏夫委員、神子田健博委員、石原美佐子委員、大場諭委員、鈴木啓一委員、田中幸太郎委員、二瓶忠良委員、松永鉄兵委員 計20名

議 題：1)「市川市基本計画のふりかえり」及び「市川市市民意向調査報告書」
2) その他

<説明内容> ・次期基本計画策定スケジュール
・市川市基本計画（平成13年度～平成22年度）のふりかえり
・市川市市民意向調査報告書
・次期基本計画策定に向けた基本的な考え方

○事務局 本日はお忙しいところ、お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

本日の会議でございますが、12月の審議会、それから先週、急遽開催させていただきました審議会でご説明させていただいてまいりましたように、現基本計画の評価につきまして、これまで市の自己評価、それから市民意向調査ということで実施してまいりました。本日は、3月末に取りまとめてまいります現基本計画の総合評価に向けまして、今お手元で確認いただきました資料2の「ふりかえり」と資料3の市民意向調査、これに基づきまして、現計画の評価につきまして、総合計画審議会の委員の皆様一人一人から、専門的なお立場でご意見を賜りたいと存じております。よろしくお願いいたします。

それで、3月末に取りまとめます総合評価書につきましては、本日皆様からいただきましたご意見を踏まえたものを年度内に取りまとめて、3月末にお諮りして評価作業に区切りをつけて、来年度の次期計画の策定につなげてまいりたいと考えております。次期計画につきましては、現計画の評価を踏まえて、新年度の策定作業を本格化させてまいりたいと考えておりますことから、本日は現計画の評価につきましてご発言をお願いしたいと存じます。

大変恐縮ですが、本日、限られた時間でございますので、前回の審議会でご説明した内容は割愛させていただきまして、できるだけ多くの皆様からご意見をいただきたいと存じております。

それでは、早速議事に移らせていただきたいと思いますので、瀧上会長、よろしくお願いいたします。

○瀧上会長 まず、本日の審議会は、委員定数22名のうち、20名出席で過半数を超えておりまして、会議の定足数を満たしていることから、本審議会は成立をいたしております。

次に、傍聴人について委員の皆様にお諮りをいたします。市の会議公開に関する指針では、審議会等の会議は公開を原則とする旨、定められております。この審議会も公開とすることでご異議ございませんか。

○鈴木（啓）委員 これは一々諮ることでしょうか。公開が原則で、市議会でも全部、事前にそういうことなくして傍聴を認めておると思うんですけども。この間来たときも、今会長がおっしゃるとおりのことをやっていましたよね。それは諮らなくて認めるべきだと私は思いますけれども。

○瀧上会長 ご意見として承ります。

○鈴木（啓）委員 いや、ご意見じゃなくて、もう公開が原則なんです。だから、諮る必要は一切ないと思います。

○瀧上会長 原則公開でやってきておりまして、傍聴人をお断りしたことはないと思いますが、今後の審議の案件によって、そういったものについては、また審議会で個別にご判断する場合がありますかもしれませんが、今日念のため、そういったことで確認をさせていただいております。

よろしいでしょうか。それでは、傍聴人の方の入場をお願いします。

(傍聴人入場)

○瀧上会長 会議を進めさせていただきます。

会議録についてでございますが、事務局が作成し、会議録署名人に内容をご確認いただいております。今回は小川委員と田中委員に署名人をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○瀧上会長 それでは、次第に従いまして、「市川市基本計画のふりかえり」及び「市川市市民意向調査報告書」を踏まえた意見交換に移りたいと思います。

着席順でご発言をお願いしたいと思います。

また、ご発言は、時間の制約から、恐縮ですが、お一人3分程度でお願いをしたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

それでは、山口委員からよろしくお願ひいたします。

○山口委員 私は市川市農協に勤務しておりますので、やっぱり農業関係のほうに入らせていただきます。

意向調査の68ページになります。この中で「減農薬栽培の推進」という部分に触れていますが、これは余りに大局的、大き過ぎて、何を対象に減農薬の推進をしているのかということが市民の皆さんは多分わからないと思います。皆さんに聞いても、多分青果物全部をやっているのではないかという感じを受けていると思うんですけども、市のほうも限られた予算の中でやっていますので、市川市のブランドになりました梨に相当な費用——相当な費用といっても、皆さんから比べると微々たるものです。これについて市のほうの補助を受けてやっているということで、その中身をもう少し細分化することをお願いしたいということです。

それと、意向調査を見て、20代の方がこういう問題に関心を持っているということがわかりました。これから先の農業問題について、若い人がそういう意識を持っているということがわかりましたので、この調査については非常に満足しております。

それと、「市川市基本計画のふりかえり」についても、18ページをごらんになっていただきたいんです。円グラフがあって、これに関係する部分で1,241億円の予算を組んであるという内容ですけれども、本来、円グラフ全体を、「快適で安全な魅力あるまち」とし、その内訳の数字を円グラフにすべきだと思います。というのは、これは何に幾ら使っているか全くわからない。全体では「安全で快適な魅力あるまち」の分野に1,241億円使っているんですけども、この中で第1節から第4節あるんですけども、その中の細分ができていないということを感じますので、今後は各章の中のどの分野に幾ら使ったということを円グラフであらわしていただけると、もっとわかりやすくなるのかなということを考えております。

それと、「次期基本計画策定に向けた基本的な考え方について」ですけれども、この中で「現計画の課題と次期基本計画の方向性」ということで、これは賛成です。その中で方向性、「施策体系を簡素化し、基本構想に基づく『大分類』相当の」ということが書いてありますけれども、これは余りにも細分化されてしまっているということですので、この部分については、大分類相当で次期の計画を進めていただきたいと思います。

最後になりますけれども、今後財政が厳しくなっていくということが、前回の会議で市長から話がありました。そのような状況では、何を一番重点的にやっていくかということをも明確化する必要があると思います。市の事業というのは、我々の事業と違い、単年度で終わるものは多分ないと思います。継続してこれからずっとやっていかなければいけないでしょうけれども、環境の変化とか経済状況の変化に応じて、その時代時代で、どこに目を向けていくかという、もっと弾力的に対応できる体制をとっていただきたい。10年ではちょっと長いのではないかと私は思っております。3年とか5年とか、それらくいの期間でやっていくべきではないかと思っておりますので、今後考慮していただきたいということ

をお願いいたしまして、私の意見にかえさせていただきます。

○瀧上会長 ありがとうございます。次の計画についてのご意見もちょうだいしましたけれども、できれば総合評価、つまり現在の10年間でどういうふうな評価であるべきだということを中心にご発言していただければと思います。総合的な取りまとめをやった後で、新しい計画のフレーム、考え方等については、改めて新年度に審議をさせていただきたいと考えておりますので、この点については、よろしくをお願いします。

それから、いろいろお話を聞かれて、ご意見もあると思いますが、今回は委員の先生方全員のご意見をちょうだいすることといたしたいと思っておりますので、ご意見、ご質問につきましては、また3月31日の総合評価についてのご審議の際に、改めてご意見を出していただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いします。

○柳沢委員 健康栄養学類におりますので、健康、医療、あるいは高齢者福祉のことを専門にしております。今回意見を述べさせていただきたいのは、子育て支援の部分と高齢者福祉の部分、あるいは第1章の「真の豊かさを感じるまち」という部分全体に当たるかと思うんですけども、今回、「ふりかえり」を一緒に送付されてアンケートをとったということで、このようないろいろなデータを伝えることで随分満足度が上がったという結果がありましたし、報告書(案)の11ページにもありますように、満足度の「わからない」という率が非常に下がっているのが見受けられましたので、いかにきちんと市民の方々に広報活動するかというか、伝える。同じ状況でも知るといって満足度が随分上がるということを感じました。

市民の方々に伝えるという部分を積極的にすることの大切さを今回感じたんですけども、それに関連いたしまして、例えば37ページの子育て支援の部分になるかと思うんです。市川市では、ファミリーサポートとか、いろいろな子育て支援をやっているわけですが、重要度は高いけれども、満足度が上がってこない。相対評価がAグループにあるのは、これもまたいろいろPRをうまくすることで満足度が上がってくるのかなと感じました。

あと、39ページの高齢者福祉の部分ですけども、これは全体評価でいいますと、相対評価がDのところですから、満足度も高く、重要度も高いというところに位置しているわけですが、年代を見ますと、60代の満足度が一番低くなっています。60代というのは、これから自分のものとしてそういう福祉を見詰めるときに、70代に比べて満足度が低いというのは、その辺の世代にもうちょっと、こういうことをしていますよということ伝えることが必要なのではないかと思います。

それと、13ページに全体の満足度と重要度の分布があるわけですけども、重要度が高いもののほうが、市民の方々がそれを非常に重要だと思っているわけですから、特にAグループに位置する、重要だけでも、満足度の低い部分、子育て支援とか地域福祉、あと保健・医療もそこに入っております。市民の方々が、そこを非常に重要だと思っているんですけども、なかなか満足というところまで上がってこないという現状が見えてきますので、その辺を考えていただきたいということと、やはり広報の部分をやより積極的にしていただければいいのではないかと思います。

○神子田委員 私の担当は、まず「ふりかえり」については、21ページの快適な暮らし、都市基盤整備でございます。まず、バリアフリー、「概ね達成できた」という評価でございます。これは駅のエレベーター設置を通じてできたのではないかと思います。

その下、道路整備でございます。これは、ここですと「やや不十分だった」ということで、まだまだ道路の整備はやらなければいけないということかと思っております。

それから、右の22ページの上のほうへいきまして、総合交通体系、ここにいろいろ書いてございます。我々京成ですと、京成本線沿線整備検討書の作成、京成本線の立体化等々、まだ最終的にはできていないということでございます。

22ページの下で、「ふりかえり」のところのコミュニティバス、ここについてもまだまだ充実するところがあるのかな、こういったような「ふりかえり」になっておりまして、自転車の放置対策等も今後の課題かなということでございます。

一方、市民意向調査、これは58ページ、59ページをごらんいただきますと、バリアフリーについては、満足度については上がっていて、これはきちんとやってきたのかなということでございます。重要度は横ばいとなっておりますので、引き続き重要であるということでございます。

59ページ、道路整備でございますけれども、これも相対評価で満足度は上がってお

て、先ほど不十分というのはありましたけれども、少しずつですが前進しているということかと思えます。

次の60ページ、コミュニティバスにつきましては、満足度も重要度も、Aグループとなっておりますけれども、どうも推移としては横ばいということで、この辺にもうちょっと努力する必要があるのかなということだと思います。

○松永委員 市議会選出の松永です。よろしくお願いたします。

市民意向調査報告書を見させていきまして、総花的にいろいろな意見をお聞きになられているんだなと感じました。先ほどありましたように、PRの仕方によって、この満足度、重要度が大きく分かれてくるというお話もありました。その中で、この結果をどうとらえていくのかということ、果たしてこれからの施策の重みづけが、これをもってどうしていくのかということところが非常に難しいのかなと思っていまして、結局、こういう聞き方をしますと、重要だけど、満足度が低いところをやりましょうということになるんじゃないかなと思います。でも、果たしてそれでいいのかという政策的な方向性もあろうかと思えますし、それぞれの中身の中で、施策としてそのことをやらなければいけないのか。施策の進め方がどうなのかということによって、また違うのかなと思います。その施策をやったからといって必ずしも満足度が上がるとは限らない。その意味で、この調査の結果をもって何を結論づければいいのかというのが、私は若干自分の中で答えが見出せていないという状況ですので、また皆さんのご意見を聞きながら、何かあればコメントをさせていただきたいと思えます。

○二瓶委員 私は、市民意向調査を中心にしてずっと見てきたんですが、この中には、これまでの社会状況がどう変化してきたのかということと、もう一つ、経済状況、財政状況がどう変化していくのかということがあると思うんです。こういう2つの大きな柱があるのではないかと私は思ってきました。

社会状況の変化については、特に雇用・労働のところで重要度がすごく高いわけです。だから、それは今の経済状況を反映しているんじゃないかなと思います。例えば、自殺者の減少、交通事故がよく対比をされますが、交通事故は減っているわけですが、自殺者が減っていないということは、これは市だけでもできないし、国の責任が相当かかわってくるんじゃないかと思うんです。

あと、雇用の問題にしても、失業者の人数がかなり多いわけですね。これは市でもいろいろ雇用政策をやっているんですが、でも、市が行った雇用政策でも本当にわずかしかできないということも大枠ではあると思うんです。だから、雇用の問題で有効求人倍率が低くなっているということでは、こういうアンケート、意向調査の中であらわれているんじゃないかと思えます。

あと、財政状況についても、これは市独自でもどうすることもできない。経済が好調に向くのかどうかということも国の責任が問われるわけですが、限られた範囲の枠内で、市が市民生活をどのように支援していくのかということが重要になると思います。

アンケートの内容については、特にAグループの中でも、年齢や男女を問わず、多くの市民が直接的に関係する項目が多く分類されていると思います。14ページと15ページにその大枠が書いてあるんですが、その中でも道路整備の問題の満足度が低いわけですね。これも県事業と国事業、これも深くかかわってくると思えますし、特に、その中で道路整備については狭隘道路が、かなり市民の不満、不安が生まれているんじゃないかと思うんです。これは「ふりかえり」の中でも、自己評価では「やや不十分だった」ということも出されております。これは長期的な計画が必要になってくると思います。

それと、項目が多いところでCグループの中に文化的な要素がかなり含まれていると思うんですが、これについては、日常的に必要な不可欠ではないけれども、必要だという内容があると思います。経済状況によっても変化するんじゃないかと思うんです。だから、重要度が低いからといって、これを余り重視しないわけにはいかないと思うんです。

例えば文化資産の保護・保全などについては、長期的に見通しを持って保全し、保護していくということは大切だと思います。あと、自然環境の保全についても、同じくどのように環境を保全していくのかということでは重要な項目になるんじゃないかと思えます。ですから、重要度、満足度との対比で、長期的な内容と短期にできる内容、あるいは国、県とのかかわり、そのような観点から進めていく必要があるんじゃないかと思えました。

○徳力委員 今回の意向調査ですけれども、「わからない」という部分がかなりのパーセントを占めている項目も多いので、こういうようなものは、なかなかアンケートだけでは

評価が難しいのかなと思いました。

それともう1つですけれども、報告書（案）の4ページの中で回答率が示されていますが、回答率が高いところというのは、これでいくと大柏地区、南行徳地区、行徳地区、市川駅南地区とか、比較的端のほうの地域の方ということがあるんです。回答率が高いのは、ここに出ている問題に満足とか不満であるとかということと別に、非常に関心が高い、つまりその地域に課題が残っているのかなという感じがしました。

○田中委員 私は、個々のサービスにおいては議会で発言をする機会がある立場ですので、違う切り口でお話をさせていただきたいとは思いますが、「次期基本計画策定に向けた基本的な考え方について」というものはおおむね賛成をしたい、応援をしていきたいと思っています。こういう計画をつくと同時に、そのチェック、わかりやすい評価というものも一緒につくっていかねばいけないと思うんです。

議会でも今お話をしているのは、企業にいらっしゃる皆さん方も大変というのは重々わかるとは思うんですけれども、今年度にISO9001を入れていく、品質を改善していく、事務事業を改善していく、そういう発想ではなく、今回のこの計画をつくるというのは、手段とか資源指向から成果・目標指向に移っていく。何のあるべき状態を達成していくためにこの仕事をしているのかということ、市民もそうですけれども、行政の内部にも浸透させる必要があるのではないかなと思っています。この仕事は何のためにやっているんですかということ、それを議会や委員会で聞いても、それが明確化されていない仕事というものも残念ながら今の行政の中にはあるということ、そのことをしっかりとつくり変えていくことが必要だと思います。

また、今回は基本計画をつくり変えるということですから、基本構想、基本計画、実施計画で、健康都市プログラムを取り入れるというものは私もいいと思います。そして、それに合わせてしっかりと政策評価、施策評価、事務事業評価というものも一緒に見ていく。来年度に新市長が事務事業を改善していく、またお金をカットしていくということで、事業仕分けを入れていくというお話を伺っていますが、感情的に今の事業仕分けの手法で切られてしまうと、何のために行政がやっているのかということが見えないということも、しっかりと総合計画をつくり変えることで、市民、納税者に対しても説明をする機会になるのではないかなと思っています。

いずれにしろ、この仕事をする、あの仕事をするではなくて、どんなまちにしていきたいのかなということ、しっかりと明確化していく、目標を見せていくことが必要ではないかなと思っています。まとめませんが、以上です。

○須保委員 今回、市民意向調査というのを見させていただきましたが、この回答状況を見たときに、前回よりも下がっているというのが、1つ、この前の報告の中ではございました。29%のご意見がどういふふうにかこれを評価するかという1つのポイントはあろうかと思いますが、いずれにしても、多い、少ないは別としまして、市民の生の声であろうということには間違いはないと私は判断しております。

ただ、13ページの中で分類がなされているわけですが、グループAの中のいろいろな項目を見てみますと、生活に密着している、関係の深いといいますか、むしろ安心や安全といった部分についての期待や希望、その辺の満足度がまだまだだなというのが総体的な感覚ではないかなと思っています。

ただ、私も労働組合のほうですから、1つこの中で雇用・労働という分野がございませうけれども、ちょうど調査をした時期が、社会環境が非常に悪い状況の中での回答になるから、そういったことにも引きずられた面もあり得るのではないかなとは思いますが、いずれにしても、今の労働環境、雇用環境が非常に悪い状況にあるのは確かな中身でございませう。特に、報道でもなされているように、新たに就職ができない状況です。そういう意味では、これから雇用をいかに創出していくのかを考えていかねばいけないんじゃないかと。国がやるべきもの、県がやるべきもの、市がやるべきもの、そして企業がやるべきものという、いろいろな分野があろうかと思うんですが、市は市としてでき得ることを実施していく、そのように進めていかねばいけないんじゃないかなと考えております。

いずれにしても、我々は住んでいる、働いている中でのことしかわからないわけで、専門的な分野はなかなか難しい部分がございますが、市民感覚で何を求めているのかというのが、多分今回の調査の中である程度見えてきていると思いますので、今後の方向性ということでは、Aグループの部分にある程度重点を置きながら進めていかなければいけないと思います。この中に健全な財政運営という部分への期待があるわけですから、そういった中

で、今後、先ほど田中委員からも事業仕分けの話がございましたけれども、中身の検証をしっかりと、必要なもの、不必要なもの、切れるもの、切れないもの、いろいろあるかと思しますので、その辺は、すばんと切るのではなくして、やはりしっかりと話し合っ
て、その中で方向性を見出していくべきではないかなと考えております。

○鈴木（啓）委員 「市川市基本計画のふりかえり」ということで、「真の豊かさを感じるまち」、「彩り豊かな文化と芸術を育むまち」、「安全で快適な魅力あるまち」、「人と自然が共生するまち」、「市民と行政がともに築くまち」、基本計画、将来の都市像という、大体どこの都市でも同じような感覚を出しているんですよ。特に市川市の文化都市としてのあり方、これについてもきちっと検証すべきだと私は思います。よくスクラップ・アンド・ビルドと言って、まず評価をし、検証していくことが総合計画では求められていると思っておるわけですが、先ほど言ったように、全国でも形式的なものばかりで、少し発想の転換をしていただきたいと私は思っております。市川市でも事務事業評価、ABC評価、バランススコアカード、そして新たにISO9001と幾つもの行政評価を実践していますが、実際にほとんど成果が出ていない上に、逆に行政評価自体にコストと労力がかかってしまっているのが現状だと私は思っております。行政評価にはインプット、アウトプット、アウトカムの評価がありますが、特に何のためにというアウトカム、政策目的の視点で行政評価の指標をつくり、すべての事業とサービスを見直し、その上で効果がないものから廃止、削減していくことが求められていると思います。今、事業仕分けなんて言っていますけれども、決算審査特別委員会でも議会でも、きちんと評価、それからこれについては廃止すべきだという提言を受けている中で、企画部は、事業仕分けは今までのような方向でやっていたのか、そういう点も非常に疑問が残っております。

何はともあれ、私は平成3年に総計審に出ている、大分ブランクがありますので、皆さんのご意見を伺って、また次期計画のときに意見を言わせていただきます。そういうことで、よろしくお願いたします。

○國府濱委員 私は、市川の置かれている位置も、この市民意向調査の中でかなり大きな部分を占めているんじゃないかと思うんですが、市川がベッドタウンであるということですね。そこから考えると、何となく市川は他市に比べてちょっと福祉部分が見劣りするんじゃないか。市川は福祉関係に力を入れている、それから文化都市と言われているんですが、それは実際とはちょっと違うんじゃないか。ここ何年か市民の見方から見ていると、福祉関係に対してのものが、もちろん市の職員の方はその中で一生懸命やっていたとは思いますが、例えばお隣の船橋市に比べても、ちょっと見劣りする部分があるんじゃないかと私は見させていただきました。

それと、今回「ふりかえり」を送られたということで、回答率もよくなっているということとはとてもいいことだとは思ったんですが、市の職員の意見に引きずられていることはないのかなというような疑問を持ちました。

それと、「わからない」と「無回答」とされた方もこの中では結構いらっしゃるんですが、「無回答」、「わからない」と書かれた方の本当の意味ですね。本当にわからないのか、答えたくなかったのか。そうではなくて、そこにはもう少し違う意味があるんじゃないかなと感じました。

それと、「満足度・重要度の分析」という13ページを見ましても、一般市民の関心があるものに重要度、満足度ともに偏っているという感じがしたものですから、逆に、この中からどうやって本当に市民が望んでいるものを拾い出していくのか、これがとても難しいのかなと思いました。

例えば、38ページの障害者ですが、「市民意向調査での意見等」で、「一般市民は何をしていいかわからない。障害者にやさしいまちでいてほしいです」と書かれているんですが、実際に障害者がまちの中で暮らしていくということに対して、そういう施策が進んでいるのかどうか。昔に比べて障害者の人も長生きをするようになってはいるんですが、それに対する取り組み方が進んでいるのかなと。市民の中に全く溶け込めていないんじゃないかという思いもありましたので、それがこれからどういうふうになっていくかという形で、関心を持たせていただきたいと思いました。

○幸前委員 活動の中心は子育てなんですけれども、そこからまちづくりとか協働のところもすごく興味がありまして、いろいろ参加させていただいていますので、今日は全体論的なところを述べさせていただきたいと思っております。

まず、「ふりかえり」を見せていただいて感じたことですが、3ページ、一番最

初を見ていただいて、12年度と20年度の比較がされている項目が幾つか、全項目に上がっているんですけども、なぜこの項目が選択されたかというところがよくわからないというのが私の感想で、数値的に比較しやすいものを選んだのか。I & Iプラン21の総合計画、基本計画、実施計画に上がった項目が必ずここに上がっているわけでもないの、重なる部分もあるんですけども、事業の取り上げ方にちょっとばらばら感があった。選択の根拠がわからなかったというのが感想です。

あともう1つ、数値ですけども、例えば、がん検診を受けた人数が平成12年度と平成20年度記載されていますが、受けるべき人数という分母の部分がわからないので、これがいいのか悪いのか。平成20年度は受診すべき分母がものすごく多かったら、実はこれは少ないんじゃないか。その辺の比較も全くわからない。以下の項目も、ほとんどそのようなものが多かったんですけども、結果がいいのか悪いのかというのがこの表からは全然読み取れなかったの、次の「ふりかえり」をつくるときは、そこを少しわかりやすくしていただきたいということが全体の感想です。

市民意向調査報告書のほうですけども、基本的に、この「ふりかえり」を配って取り組みをPRしたというところは、すごくよかったかなと私も感じました。

あと1点、資料の9ページですけども、一番右の欄の「推移」のところの、「評価値」の横に「順位」の欄が本当は入るんじゃないかなと、ちょっと疑問を持ったのです。他のところは「評価値」「順位」と2列になっているんですけども、「推移」のところだけ1列になっているので、抜けたのかなと思いました。

12ページから15ページに調査の結果がグループ別に分けてありますが、こちらを見て一番感じたのは、2の「彩り豊かな文化と芸術を育むまち」という項目がすべてグループCに入るんですね。大体、経済がマイナスになっていくと一番に切られるのが文化の部分で、だからといって文化は要らないのか。本当にそれでいいのかというところをきっちりとらえて、ここでCグループに入ったから、もういいですねと切られてしまうと、悲しいのが文化のまち市川かなという感じがしました。

あともう1点、全体的に取り組みの満足度を見ていたんですが、一番渦中にある世代の人の満足度は総体的に低い傾向にあると思います。例えば子育てだったら、30代、40代の満足度はすごく低いです。高齢者の施策は60代の方の満足度がすごく低いということで、やはり渦中にいる方にとっては、もっと頑張ってもらいたいので満足度が低くなる。逆に、自分たちに余り関係ないというところは、こんなものでいいかなという気持ちがちょっと入るのかなという気もするんです。例えば高齢者のところで、20代の人の満足度はまあまあ高いほうに入っています。そういうところを見ると、先ほども國府濱委員が述べられましたが、わかっていないから、満足度はこんなものでいいかなという結果が出ている可能性があるということも気をつけていただきたいと思います。

あと自由意見の中に、「私たちの意見によって、少しでも良い町になるように願っています」という意見がありましたが、本当にこの調査が次の計画にフィードバックされるような、よくわかる形でやっていただきたいと。

また、もう1点、計画全体に関してですけども、本当に経済状況が厳しくなって、今いろいろな事業を中止していかなければいけないとなったときに、まず市民が自分でできることは自分でやらなければいけないと思うんですね。そういう気持ちを市民自身にも持っていただきたいし、行政の職員も、自分でできることは自分でやっていただくということを計画の中に……。今までの計画、この10年の計画というのは、行政はこういうことをやりますという面しか載っていないと思うんですけども、例えば、極端な話ですけども、市民はどうあってほしいか、街はどうあってほしいかということが計画に盛り込めるといいなとは思っていて、実は立川市が基本計画に、市の目指す姿と、地域の目指す姿と、ありたい市民像というトライアングルで計画をつくっている。次世代育成支援行動計画の中には、市民が主体となって進める事業というマークがついたり、子どもが主体となって進める事業というマークが入っているんです。そういうような計画で、今後、市川市は市民も巻き込んでいかないと、この事業はお金がないから削ります、だれがやるのでしょうかという計画になってしまうと、多分市民も文句が出て、そっぽを向いてしまう。でも、やっぱり市民ができることは市民でやっていただきたいと思うので、その辺を計画の中に盛り込めるように、パブリックコメント、タウンミーティングだけではなくて、市の素案をつくる前から、市民の声をもっともっと聞けるような工夫をしていただきたいかなと思いました。

○鈴木（啓）委員 議事進行。会長は、皆さん最初にやったときには、20人もいるから3分ぐらいでどうかと言って、私がつけていると、みんないいところ3分か、3分30秒ぐら

いで終わっているんですよ。今、7分近くかかっている。じゃ、フリートキングでやってくださいよ。皆さんが平等でやりたいというのであれば、やっぱりそれは制限してもらわないといかんと思いますよ。

○瀧上会長 それでは、小倉委員、よろしくお願ひします。

○小倉委員 私は3分でいきます。学会でも学生の発表でも、いつも私も時間は守りましょうという話です。

○松永委員 この場で意見を言ってもらうんだから、3分に縛らないで、ちゃんと言ってもらったほうがいいですよ。

○小倉委員 でも、目標は3分でいきましょう。

私は専門が環境工学なので、その辺にかかわるところだけをコメントさせていただきますが、まず「ふりかえり」のほうでは、環境ですと4章ですね。29ページを見ると、自然を大切にという1節、それから環境負荷の少ないまち、資源循環型、この辺の分け方がどうかというのは、環境工学的にはいろいろあるんですが、まず一番最初に申し上げたいのは、環境に対する認識は10年前と大きく変わっています。10年前は大気汚染、水質汚濁というのが多分メインだったと思います。ダイオキシン云々とあったんですけども、一般市民の方でも数年前からは「地球温暖化」という言葉を耳にして、ただ、それがどうしてかというのを本当に理解している方はどれだけおられるかは別としても、多分、化石燃料を使うことによって、そういうことが起こるんだということは理解してもらっていると思うんですね。そういうエネルギーから発生する環境問題というのは大きいということを理解していただいて、これからの10年に向けては、ちょっとここの章立てを変えたほうがいいなと思います。

後ろの資源循環についても、プラスチックのリサイクル云々と言っていましたけれども、実は、エネルギーを使わないためにはプラスチックは燃やしたほうがいい。いろいろあるんですよ。そういう意味で、最終的にどうすれば環境負荷が少ないかということをやまず自治体でしっかり理解していただいて、それを目標に掲げるということをやりたい。

そういう話をしていると、3分どころか30分あっても足りないのだけれども、とにかく幾つかの問題で一番大きいのは、石油、石炭、化石燃料がなくなるぞという資源問題、それからそれを使うことによって温暖化が起こる、あるいは酸性雨が起こる、その辺が一番大きいところですね。その辺をやまず持ってきてほしいということ。

それをやっていないと、これから、ご存じのように地球温暖化——ただ、地球温暖化に直接きくかどうかは別として、とりあえずCO₂発生量は数値化されます。それから、自治体のエリアでの話は、多分エネルギーも数値化されるでしょう。次に、環境税云々でコストにもかかわってくると思います。したがって、この辺はしっかり自治体としてどうしたいかということをやった上で、ここで今までやってこられた太陽光発電などいろいろ出ているんですけども、もう少し広くやっていただきたいし、コストがかからずにできることもたくさんあるので、そういうことを精査していただきたいということ。

あと、市民を巻き込むというパターンからいきますと、私はエンジニアなので、本当は環境技術をどんどん入れたいんですが、実は最初にきくのは、多分省エネ技術より省エネ意識のほうがずっとききます。市民が何十万人おられるので、そこがほんのちょっと省エネ意識を持つだけで、大幅にCO₂は減らせます。そういうようなことをやってほしいので、当然啓蒙活動も、本当に正しい環境に対する知識をつけてほしいという啓蒙活動をやりたい。意向調査の73ページ、75ページを見ると、重要度は高いけれども、満足度は低いということで、これは多分補助金とかを上げると満足度は上がるのだけれども、それだけではないということだと思います。

ただ、74ページの「環境に関する学習～」を見ると、今度はCグループに入っている。この辺は、環境教育のあり方をしっかりすれば、CグループからDグループに移行することも十分可能だと思っていますので、方法論をしっかりやっていけば大丈夫かと思うんですが、とにかく環境問題というのを正しく認識して進めたいと思います。

○小川委員 私は基本的には普通に働いておりまして、市川市で生活しておりますが、学校関係、子どもを取り巻くことについて、全体の意見といいますか、見た感じでお話しさせていただきますしたいと思います。

13ページの分布図の中で、学校教育と学習成果、あと青少年育成についてですが、満足度と重要度が、学校教育についてはDグループのほうに入っておりますが、学習成果については若干重要度が下がっているという、この開きの関係。アンケートに答えている方々の年齢層もあると思いますが、そういう教育の現場と実勢と地域のかかわり、またこれから青少年育成についてちょっと思いました。

あと、今回の「ふりかえり」、またアンケートについても、前々回出席させていただいたときに、この調査の意義といいますか、皆さんのアンケート調査の中での自由意見が書かれておりますけれども、こういう計画を知りましたと。市川市はこういうことをやっているんですよという意識を皆さんに少しずつでも植えつけて、皆さんに知っていただくということが、これからこういう「ふりかえり」を通して、よいことではないかなというふうには思っております。

○大場委員 私のほうは、「ふりかえり」で言いますと、第1節の19ページ、安全・安心な暮らし、これから少子高齢化になっていくということで、ここで高齢者世帯への取り組みとかされております。市民意向調査ではAグループになってはいますが、高齢者にとっては、この意識とはちょっと離れたところがあるかなと思います。

それから、今、市川市自体がベッドタウンと先ほどもお話の中になりました。特に、場所によっては高齢化が進んで、また自治会も加入率が低くなってきていて、地域のコミュニティが非常に希薄になってきていて、犯罪も発生しやすくなっておりますし、高齢者にとっては非常にコミュニケーションがなくなってきているので、ひきこもりが多くなっていくというのが実際に市の中でもありますけれども、第5章の「市民と行政がともに築くまち」ということで、「ふりかえり」では40ページの「まちづくりのための新しいコミュニティをつくりまします」ということで、ここでコミュニティの活動拠点の整備とか、下の課題の中で、「様々な市民活動の活発化に従来型の箱物建設的な拠点整備では対応できなくなっている」というのは、これからどうしようと、ここでは思ったのだろうか。

それから、下のほうもそうですね。ボランティア活動。本当は市川市には地域力、またこれから分権と言われていて、大事なことなんですけれども、意向調査の80ページ、81ページでは、重要度が低いCグループになってきている。先ほど幸前委員が言われたように、本来は市民がやるべきことが、今、自助、共助と言われてはいますが、じゃ、どういうふうにしていくのかというのが本来市民の中からも意識として上がってくるべきなんですけれども、このように意識が低いというのは、今までの取り組みの中に何か問題があったのではないかと感じましたので、そのまま今回の意向調査が今後の政策に当てはまるべきなのかどうかという疑問も感じました。

○歌代委員 この「基本計画のふりかえり」を見まして、個々にはいろいろ意見を述べたいところがありますが、時間もないようですので、全体的なことを述べさせていただきます。

これを見ましても掘り下げ方が浅いと思います。ということは、現場を知らず、デスクワークだけでやっている方が多いんじゃないかなと。今度の市長さんも、現場を見て、重視するということをおっしゃっておりますが、これを見ましても、我々は直接ほとんどの現場を見ておりますよね。しかしながら、行政の職員の方は見ていない方が多いのではないかと感じられますので、これからそういう点も含めて、こういう計画をつくっていただきたいと思っております。

個々には後でまた述べさせていただきます。

○井上（敏）委員 まず、意向調査の感想で言いますと、民意をとらえることの難しさを感じるわけですが、今回の回収率が3割であって、一般的には4割とれているということで、低くなった理由にボリュームのある質問項目があったという説明があったわけです。想像で言うては悪いんですけども、行政に対する理解なり意識の高い人は回答してくれたけれども、むしろ行政の手助けを求めている人が10%の中に相当数いたのかなという印象を持っております。その辺をフォローするために、市会議員の方々が一定数この委員になっているのかなと理解しておるわけですが、

次に、防犯・交通安全を中心とした安全・安心ということで申しますと、特に防犯関係では、重要度にしても満足度にしても高い評価になっております。これはアンケートを実施した時期が12月ということで、当時は市川近隣で重要・凶悪事件が多発していて、新聞、テレビでその報道による影響で相当数字にも出てきているのかなと割り引いてとらえておりますけれども、いずれにしても、重要度、満足度について一定の評価をいただいた

ことは、警察としてもありがたく思っておりますが、細部に見ていきますと、満足度で白抜きの数字の地域もないわけではないので、その辺はこれから詳細に分析して、公平な安全・安心ということでやってまいりたいと考えております。

それから、「ふりかえり」のほうであります。これも安全・安心の部分について言うと、「概ね達成できた」という評価をいただいております。後半の道路環境等はハード部分、予算に直結するもので、「やや不満」というのは、その実感のとおりだなと思っております。これから税収が少なくなっていく中で、どういうふうに関税調整をしていくのかということは、個別の検討をさせていただければと思っております。

いずれにしても、先ほど来出ていますように、情報の発信ということで市民の受けとめ方は相当変わってくると感じますので、安全・安心についても、これからもやってまいりたいと考えております。

○石原委員 まず、「ふりかえり」のほうで、2ページにございますように、財政投資の表、従事職員数の比較というのが各項目ありますが、以前ご質問したときに、ここには正規職員のみが掲載されているということでした。こういう形で出しますと、市民のほうでは、こんなに人件費をここで浮かせたんだと理解してもらえないかもしれませんけれども、一方で、こんなに人が減ってしまって、サービスの低下を招いていないのかなという不安もあわせて出てくるのではないかと思います。ですので、従事職員数を比較する場合は、正規だけではなくて、正規のかわりに非常勤や委託でやっている業務も多数あるわけですから、非常勤や委託があるのかないかとか、その辺の情報もあわせて載せる必要があるのではないかと思います。

もう1つ、「ふりかえり」の例えば3ページですけれども、ここの第1節の部分、「概ね達成できた」という行政評価が多い中で、一方で報告書の13ページ、「満足度・重要度の分布」とあわせて見ますと、同じ項目でありながら、行政のほうは「概ね達成できた」、でも、市民意向調査では満足度が低いというものが多数見つけられます。この辺に課題があるかと思えます。市民の意向とはちょっと乖離している結果が出ているのかなと思えます。

それから、「満足度・重要度の分布」の中で、雇用・労働、道路整備が、満足度で非常に不満、しかし重要度が高いというところのトップにランクされたわけですけれども、特に雇用・労働に関しては、景気の変動による影響が大きいとは思いますが、景気がこうだからということを経由にするのではなくて、やはり市として取り組めるものがいろいろあると思えますので、今後、これまで以上に積極的な取り組みが必要な分野なのだと思います。労働に関しましては、若年層や女性、高齢者、障害者も含めまして、その辺の強化というか、そういう部分が見えてきたのではないかと思います。

最後に、「わからない」の回答で、10ページですが、「市民と行政のパートナーシップの構築」というのが45%で1番でした。一番高い「わからない」の回答が「市民と行政のパートナーシップの構築」だったわけです。これは、市民との協働を掲げずとやっていた前市長の取り組みの中で、78ページを見ていただくと、「市民と行政がともに築くまち」というのが、満足度は高いんですが、重要度は低くなっているんですね。重要度が低いという、この意味はどういうことなのかというのを考えなければいけないと思えます。重要度が低いというのは、もう十分だという意味なのか、そんなことはないのではないかなと思えます。これから市民の力をもっともって生かしてやっていかなくては市はやっていけない状況で、何でもかんでも市がやるわけにはいかないわけですから、そういう意味では、ますますパートナーシップの構築が重要ではないかと思えます。ここが「わからない」でトップになったことと、重要度が低くなっていることを私は非常に危惧するわけですが、もっと市民にどういうパートナーシップなのかというメッセージを送る必要があるのではないかと、その辺も今度の総合計画の中には踏まえていくべきではないかとも思いました。

○飯沼委員 商工会議所常議員の飯沼でございます。

自分の立場上、「産業を振興し、活力あるまちをつくります」というところに目が行っていたわけですが、結果からすると、「やや不十分だった」というところが多いと思えます。それを踏まえて意向調査のほうを見させていただいたんですが、市民の目から見た部分と申しますと、意外と満足度、重要度の推移が右肩上がりである。マイナスには違いないんですが、上がっているということで、経営者側からすると、商店会のシャッター横町の現状とか工業の振興等、いろいろ考えた部分で見ますと、ちょっと違うのかなということが率直な印象でございます。

ということで、全体の「調査の概要」というところを見させていただいて、回答率が30%ぐらいということで、これが50%になったらどうなるのかという部分、あるいは場所によって市民意識がかなり違うのではなかろうかという気もいたします。そのようなことで、今後、基本計画をつくっていくに当たりまして、こういった30%台という部分が少し上がるように、あるいは市民参加という形、市民意識というものをもう少し高めていくためにはということで、市民参加という部分をキーワードにいろいろなものを策定していくのがよろしいのではないかなという気がします。このエリアというか、とかく東京都の衛星都市というのは、どうも市民意識が低いという共通認識があるかと思います。寝に帰るだけではなく、自分たちの住んでいるまちをよくしようという意識を持ってもらう、そのような参加意識をつくるような基本計画、大要をつくるのは基本計画でしょうが、細かい端々にそのようなことを意識していけたらいいのではないかなという感じがいたしました。

○井上（俊）副会長 今日話をしていた内容が自分自身としては見えなかった部分がございます。本年度委員になりまして、第2回目の視察で市内の状況を見させていただいて、自分自身勉強になったなと思います。

意向調査の資料が私のところに届きまして、今日先生方のお話を聞きまして、28ページの「自由意見」という中での「分野別の意見件数」というのがございます。ここでは1章と3章が1,000台を大幅に上回っている。ここは関心があるなというところで、先生方のお話や13ページの分布というのを見ても、「真の豊かさを感じるまち」と「安全で快適な魅力あるまち」というところが市民の関心を集める。しかし、2章、4章、5章というところは半分以下という状況で、この辺をアピールしなくてはいけないのではないかなと思います。

また、私は学校関係から出てきているものですから、40、41、42、43ページあたりを見させていただきまして、市川市の教育行政というのは、行政と現場が一体になって現在の変化、変革に対応しているなど。私自身が市川市内でお世話になったときにも、かなり対応をすぐにやっていたという感じを持っておりまして。現在でもそのようにやっていたら、特に児童、生徒、学生、その親御さんというのはやはり関心が高く、ここでも参加しているなど感じました。評価結果につきましては、やはり高いのかなという印象を持っております。

○瀧上会長 ありがとうございます。私自身も、前回、前々回の事務局からの報告を聞き、これらの市民意向調査報告書、「ふりかえり」を読ませていただいて、全体としては、計画に対する評価というのはプラス方向に上がっていると考えましたけれども、個別の中身、それから今いろいろとお話のありましたように、その後の社会情勢の変化といったようなこともいろいろと反映しているのではないかなと感じました。

あと、全体的な自由記載のところに非常に関心を持って、1つ1つどういうふうな意味かということもいろいろと考えさせられたものもあります。

いずれにしても、この調査結果は3月31日の総合評価ということで整理をして、その評価が次の新しい計画の踏み台になるということで、今後その整理をしていかなければならないなという感じで全体を読ませていただきました。

皆様のご協力によりまして、全員の委員のご発言を終了させていただきました。残された時間、先生方の補足の意見、あるいは新たな意見、ほかの委員の皆さんの意見を聞かれて、ご意見を提示していただきたいと思います。

それで、これからの時間、少し議論の整理ということもありまして、第1章から第5章までの大まかな項目でご意見を賜ればということで進めさせていただければと思います。

まず最初に、項目も一番多く、アンケートの内容でもいろいろなご意見が出ている全体の60%ぐらいを占めている分野ですが、「真の豊かさを感じるまち」という分野について、さらにご発言、ご提案等があれば承りたいと思いますが、いかがでございましょうか。

○小川委員 教育費の中で、小学校、中学校、あと学校給食、幼稚園等あるんですが、これは、こういう基本計画があって、長期的、短期的な計画のもとに進めるのですが、今、学校給食費に関して、市長が替わられて無償化ということをおっしゃっていました。

今、米の支給を行っているということでありますが、そういうところで全体の市の予算に今後どういうふうに影響が出てくるのかなというのは感じておりまして、

ここでお聞きしていいのかどうかわからなかったんですが、今後の基本計画に影響が生じるのかな、どうなのかなということ。

○**瀧上会長** そういった問題意識が提起されたということで、ほかに第1章についてご意見がありましたらお願いいたします。

○**柳沢委員** この部分ということではないんですけども、今回のこの話し合いのもとで、報告書（案）が少し変わると考えてよろしいのでしょうか。少し加えられるとか、そういうことではないんですか。でも、今配っていただいた平成22年2月の報告書（案）を、こういうことを加えたらもう少しよろしいのではないかとすることは……。

○**事務局** 総合評価書のイメージはどんなふうになるのかということでもよろしいでしょうか。今、お手元にお配りしています市内の自己評価、市民意向調査、こういうことで評価を進めてまいりました。これは総合評価の中で、そのまま併記をしていきたいと考えております。これを見ていただいて、皆さん専門的な分野からご意見を賜ってまいりました。ご意見をいただいて、10年間の総括なり、次へつなぐ課題ということで、皆様の意見を生かしながら総合評価書を取りまとめてまいりたい、そのように考えておりました、取りまとめた段階で、また3月の末に事務局で素案のようなものをつくらせていただき、ご意見を賜ればということで考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○**柳沢委員** そのときに、13ページにある「満足度・重要度の分布」というのは、全体像を見ると非常にわかりやすいのですが、これは平均で出されているんですけども、いろいろな方々のご発言を聞きますと、世代による考え方の違いがあるような感じがいたしました。各年代だどちょっと細か過ぎるような感じがしたので、例えば20～30代で1つの表とか、40～50代で1つの表、60～70代で1つの表をつくられると、またもうちょっと問題点が絞り込めるかなという感想を持ちました。

○**瀧上会長** 今の点の整理については、事務局のほうから何か意見がありますか。

○**事務局** 資料の整理の中では、まだ取りまとめておりませんので、まとめてみて何かまた見えるようであればということで、ご意見は貴重なご意見ということで賜りたいと思います。

○**歌代委員** 6ページ、青少年相談員連絡協議会、皆さん方はこういうのを知っている方が少ないと思います。それで、ここに「やや不十分だった」と。私の考えは、最後の「不十分だった」というところですね。というのは、今、青少年相談員は地区別に分かれていて13地区あるのです。そのうち実際に活動しているのが3つ4つあるかないかなんです。これは県と市の委嘱でやっている協議会ですから、そういう協議会があるにもかかわらず、実際には機能していない。こういうのは、他の体育指導員とか、そういうものと統合して、一緒に事業をやればいいのではないかなと思っておりますもので、ここでは「やや不十分だった」が私の考え方とは乖離しているということでございます。

○**神子田委員** 今、29ページのご意見のところを見ているんですが、今後、「真の豊かさを感じるまち」として市川市が取り組まなくてはいけないところというのは、女性の社会進出、男女共同参画社会をどうやって社会基盤の整備で支えていくかということだと思うんですね。真ん中のあたりに「女性が社会進出したいと思って」とか、子育て支援の取り組み、こういったことは企業でもやっておりますけれども、採算ベースに合うかどうかというのはとても難しいことではございまして、これはやっぱり何といたっても社会基盤の整備、これが文化都市市川市としては、何がなくてもやるべきことではないかと私は思っています、一言申し上げた次第でございまして。

○**山口委員** 「基本計画のふりかえり」の5ページですけれども、第2節の中で、耐震問題について、想定で132棟中、今終わっているのが36棟という考えでよろしいですか。

○**事務局** そうです。学校ではなくて棟で終わっているということです。

○**山口委員** 132で、現在36終わっていて、これで「概ね達成できた」となっているんで

す。相対で見て、事務局は「概ね達成できた」という考えでいると思うんです。下のほうの「これまでの評価」ということで、「概ね達成できた」という評価を下しているわけですが、これは通常からいくと、半分以上の耐震が終わって、おおむねではないかというのが普通ではないかと思うんです。1つのことをとらえて私は言っていますので、そこは考え方が違うかもわかりませんが、そこら辺はどうなんですか。

○事務局 ここは「自ら行動する子どもを育てるために」というところで、環境の1つの要因として、学校の耐震化ということをして1つの指標に掲げさせていただきました。ただ、実は今ご指摘の大きな部分というのは、24ページ、第3章になります。「公共施設整備と良好な住環境のために」ということで、ここに学校だけではなくて、すべての公共施設の耐震化率ということをして掲げさせていただきます。ここは、課題にも書いてございますが、まだまだ不十分であるということで、計画的に更新していくことが必要であろうということで、そういう意味で、この部分で耐震化の問題を大きく取り上げて、「やや不十分だった」と自己評価をさせていただいている中で、今の山口委員のご指摘の部分というのは、指標として取り上げさせていただきましたが、施策としては「自ら行動する子どもを育てるために」ということで掲げさせていただきました中で、この中に他のいろいろな取り組みがございます。それを総合的に自己評価した中で「概ね達成できた」ということで、指標の取り上げ方が多少説明不足の部分があったのかなと考えておりますけれども、そういった評価をさせていただきました。

○山口委員 1つずつ見ていくと今私が言ったようなことが発生してしまうんですね。ですから、耐震関係については、本来、市の施設関係については一本化して表示すればもっとはっきりするんじゃないでしょうか。子どもの関係の中に入れて、その1つの議論と、さっき言った24ページの議論という形になると非常にわかりづらい。説明を受けないとわかりません。ですから、本来、耐震問題についてはすべて1つで今後やっていくのが本来の表示の仕方ではないかと。これは私の意見です。

○瀧上会長 ありがとうございます。それでは引き続き、第3章の部分にかかわるご意見がありましたが、第2章の「彩り豊かな文化と芸術を育むまち」ということで、さらにご意見があれば伺いたいと思います。

○山口委員 国際交流ですが、どのようなことをやっているのか全く見えないという感じを私は受けました。いろいろな国と姉妹都市契約を結んで活動しているわけですが、交流の関係もわかりませんし、どのようなことを目的としてやっているのかが見えてこないで、お願いいたします。

○事務局 基本計画の中で、今、現状では、先ほどもご指摘があった教育の部分で耐震化が入っているというのも、「自ら行動する子供を育てるために」の中で、学校環境の改善というところで建物の改修とか、そういったものも含まれているところで、一部評価をさせていただきましたということが1つ。

それから、今の国際交流の部分でも、第2章の第3節「新たな融合文化を創造するために」というところで国際交流の取り組みを施策の1つに位置づけておりますので、その評価をさせていただいた中で、今のご指摘というのは意見として承りたいと考えております。

○鈴木（啓）委員 今、山口委員が言っているのは、ローゼンハイムとか、樂山とか、メダンとか、そういう国際交流のあり方で見えていないから、どういうことをやっているのという観点から聞いていると思うんですが。国際交流のあり方が見えてこないという意味で。

○瀧上会長 それでは、それについては、そういった問題提起があったということで、今提起がされていると思います。

○鈴木（啓）委員 会長、要するに耐震構造のやつも資料として出させればいいんですよ。企画部長、今議会でも8つぐらい小学校だって耐震があるでしょう。だから、耐震の対策をどのぐらいの規模でやっているか、やっぱり会議に出してもらわないと。

○**瀧上会長** その辺につきましては、総合評価の上で必要があるということであれば、事務局のほうと資料について調整させていただきます。あるいはこれからの新しい計画をつくるに当たって、どのように認識して新しい計画をつくったらいいか、そういった議論にもなるかと思っておりますので、その点について調整させていただきます。

それでは、第3章の「安全で快適な魅力あるまち」というほうに進ませてもらいますが、この中で、水害のないまちづくり、バリアフリーのまちづくり、下水道整備、良好な住環境の形成、地域の特性を活かした土地利用、市街地整備、都市景観の形成、工業振興、水産業振興については、バリアフリーについては先ほど若干触れていただいたご発言があったと思っておりますけれども、ほかについてはご発言がなかった項目でございまして、いかがでございでしょうか。

○**石原委員** 「ふりかえり」の22ページに「(3)総合交通体系を整備するために」とありますが、今日同じ時間に交通対策審議会というのがございまして、そちらでいろいろ今までの課題について、今後について話し合いをされていると思っておりますので、どういう議論が出ているのか、どういう方向に向かっているのか、そういった情報をぜひ総合計画審議会の委員に資料として出していただきたいと思っております。やはり専門にやっている審議会での結果や何かは非常に重要になっていくと思っておりますので、そういった整合性をとるということもありますし、私たち委員が持っている情報だけでは不足しがちだと思いますので、ほかに審議会を置いてやっている部分に関しましては、特にそういった情報を積極的に出していただければと思います。特に、ここの「総合交通体系を整備するために」という分野は、第2節、都市基盤整備を進めるという上で非常に有効な情報になるのではないかと思いますので、他の審議会でも話し合われた情報を事務局のほうで精査していただきまして、委員に委員会の直前だけ資料を送るのではなくて、普段からそういったものを配布していただければと思います。意見です。

○**事務局** どこまでというのは私どもも整理できないところではあるんですけども、承った内容は、おそらく資料としても公表していると思っておりますので、取り寄せてご提供することは可能だと思います。

○**瀧上会長** それでは、今の件については、総合評価、あるいは次の計画の策定、そういったものに参考になる情報、資料があるということであれば、またご提出、あるいは情報提供させていただきます。

○**事務局** 資料の提供についてですが、審議会の中で議論している部分については、協議をする必要があると思っておりますので、公表しているものを前提ということで、確認をさせていただきます。

○**瀧上会長** 提供可能なものがあればということで、ご了解いただきたい。

それでは、第4章、「人と自然が共生するまち」ですが、先ほどの議論では、緑豊かなまちづくり、あるいは水辺空間の創造、地球環境問題、環境に関する学習や活動の推進、産業廃棄物処理体制の充実等につきましては、今日のところでは特にご発言が出ておりませんが、こういった面についていかがでございでしょうか。

○**小倉委員** とにかく皆さんで環境意識を向上して勉強してやっていきたいと思いますというところで、アンケートのデータを見たら、統計的に環境というのは2番目ぐらいに意識が高かったのが出ていましたね。最初のほうだったんですけども。25ページを見ると、「福祉」の次に「環境」に対して重点を置きましょうというのがあるので、市民も巻き込んでやれば、それだけ返ってくると思うんですけども。ですから、やっていただければということで、繰り返し申し上げると、やっぱりエネルギー問題と環境問題を含めたようなところをこれからはしっかりやっていければなと思います。

○**瀧上会長** ほかにございますか。それでは、第5章の「市民と行政がともに築くまち」につきましては、先ほど多くの委員の先生方からご発言いただきましたが、市民活動の振興の問題、広域行政の推進、情報通信技術による市民生活の向上についてはございませんでした。

○**大場委員** 先ほども発言させていただきました中にありますけれども、「まちづくりの

ための新しいコミュニティをつくります」ということで、1つ指摘をさせていただきたいんですけども、下の段の「自主的な市民活動の拡充のために」というところで、「ふりかえり」の冊子の40ページです。その中の2行目、「活動へのきっかけや機会の提供、活動を支援する場所の整備、情報・意見交換の機会の提供などにより市民活動を支援した」と。これは「概ね達成できた」という評価ですけども、福祉政策の事業見直しの中で、各自治会もそうですし、ボランティア活動している方たち、また子育て世代の方たちが、どこかに集まって新しい活動をする。市の呼びかけでいろいろボランティアだとか団体ができたわけですけども、実際に集まって打ち合わせする場所がないというのが、すべての地域からの課題で、要望でもありました。ここで、「活動へのきっかけや機会の提供」はできたかと思えますけれども、「活動を支援する場所の整備」は全くできていない。これはどうするのか。市でふれあい館だとか公民館だとか、縦割りの中でいろいろ拠点はあるわけですけども、それだけでは足りない。これを自助、共助でどういうふうにしていくのかということで、ここでは評価が「概ね達成できた」ということで、このままで過ぎてしまうのはちょっと……。今後の計画の中にきちっと盛り込むべきだと思います。

もう1つ、コミュニティにつきましては、先ほども第3章の中で防犯・交通安全ということで、地域によっては、おまわりさんが一生懸命回っても、犯罪件数は減っていますけれども、ひったくりの件数は増えているわけですね。それは私も議会で最初に指摘しましたけれども、ますます増えております。これは犯罪者側からすれば、非常にやりやすい地域なのではないかと思えます。他市から来た人が、市川市でひったくりを行っているという現状があって、これは行政でも立ち行かないし、警察でも立ち行かないというか、限界があると思えます。やはりコミュニティで何とかしていかなければいけないところだと思いますので、この辺はしっかりと「ふりかえり」で、また次の計画に入れていただきたいところだと思います。

○歌代委員 今、大場委員がおっしゃったように、この部分では「概ね達成できた」と書いてありますけれども、私は、下の「やや不十分だった」というところにチェックしてあります。例えば地域ポイント制度（エコポカード）、これはどのような利用の仕方がされているのか。それで、その使用範囲も狭いんですよ。ですから、そういう点の検証、そういうところもしっかりとやってほしいと思っております。

○國府濱委員 関連することだと思うんですが、1%支援制度、これも市民の税金を使っているわけですが、関係部署以外は市の職員の方も全く無関係でいらっしゃるんじゃないかと思うんです。PRをする場所もほしいということで、チラシを置かせてもらいたいと思っても、全く置かせてもらえないし、同じ税金を1%使うんだったら、もっと市を挙げて応援するという体制をつくっていただきたいと思えます。

それから、大場委員に言っていただきましたが、場所の提供ですね。ボランティアグループは、ほとんど活動する場所、話し合いをする場所がないんです。公民館等はたくさんありますけれども、それは既存のサークルがほとんど使っている場所であって、新たなボランティアグループが話し合いをする時の場所がほとんどありません。NPOのまちの縁側というところがあるんですが、そこも八幡は使えるけれども、行徳は広さがありませんので、実際的には使えない。ですから、市側が市民とパートナーシップを築く上では、空き教室でも何でもいいです。それをもう少し使えるようにしていただけたらと思えます。

○瀧上会長 ほかにございますか。

○鈴木（啓）委員 これは言いつ放しですか。

○瀧上会長 ここは委員の先生方のご意見をお出しいただいて、そういったものを次回の3月31日の総合評価といった中で整理をさせていただきます。

○鈴木（啓）委員 今みたいな場所の提供や何かは、例えばNPOとかボランティアの団体は企画部が所管しているわけですよ。企画部長もいるわけだから。要望でも何でもなし。これに関連して、確実に場所は提供しなければいかんと思えます。

○瀧上会長 それでは、事務局のほうから。

○事務局（高橋企画部長） 企画部長の高橋でございます。ボランティア活動等の場所の問題につきましても、いろいろな施設が多々ございますが、所管もそれぞればらばらなわけです。教育委員会の学校施設についてのご指摘もありましたけれども、これは教育委員会の所管でありますし、自治会館、ふれあい館は市民経済部の所管ということで、そういった既存施設で稼働率が低い施設があるのかもしれませんが、活動拠点などの点については、次の計画に生かせるものは生かしていきたいと考えます。

○瀧上会長 今日のご報告については一渡り議論させていただきましたけれども、その他ということでは……。

○松永委員 報告書の整理の仕方、余りにも満足度と重要度という意見をとって、満足ですか、重要ですかと聞いて、その結果をもってこうですと言われても、まあ、それはそうだろうなとしか言いようがないと思うんですね。例えば交通体系とか道路整備に関しては、地域的に満足度とか重要度の割合を見たほうがいいと思いますし、男女共同参画の問題に関しては、男女的なギャップの問題というのが非常にあると思いますから、そういうところを見ていかないと、すべきことを定義するのは難しいんじゃないかなと思います。

あと、歌代委員も言われていましたけれども、「ふりかえり」をもって満足度とどうリンクをしているのかということもきちんとはかっていくべきではないかなと。きちんと施策をやっている、十分できたけれど、満足していないものと、やらなくても満足がいているものというのは当然あるわけで、そこを分析しないと、今後何をやっていくべきかという定義はできないのではないかなと思います。このままいきますと、恐らくAグループ、満足度が低くて重要度が高いのを一生懸命やりましょうという報告書になって、何のファクトもない報告書にしかたらないのではないかなと感じます。

あと、もう1つ言えるのは、本来的に行政が担わなければいけないものと、そうでないものというのが施策の中であると思うんですね。法律的に定義をされていて、決められているからこういう施策をやっている、その結果、満足なのか。それから、もっと行政的な裁量がある中で、いろいろな施策をやっている、その中で満足度が高いのかということ、行政のコアなのか、そうでないのかということの満足度、重要度という分析の仕方、1つはあるのではないかなと。当然、行政の裁量があるものに関して、今後、総合計画の中で重点的にやっていくということは考えられると思うので、その辺の分析をさせていただいたほうがいいんじゃないかなと思いました。

○瀧上会長 それでは、今日貴重なご意見をいろいろとちょうだいいたしましたけれども、これらのご意見をもとにしまして、総合評価書案の作成作業に入ってもらいことになりまして、今日出た審議会での委員の皆様のご発言の整理につきましては、私、会長のほうにご一任をさせていただきます、次の審議会でお諮りをさせていただきますと存じます。

また、今日、次の計画の策定に当たっての参考となるご意見もいろいろちょうだいいたしましたので、そういったものも今後整理をさせていただきますと思います。そういった面、3月31日の総合評価を踏まえて、新年度より新計画策定の作業というものを本格化してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

以上で平成21年度の第4回市川市総合計画審議会を閉会させていただきます。長時間にわたり大変ご苦労さまでございます。ありがとうございました。

午後0時 閉会